



- 講義要綱には、絶版もしくは品切れとなった参考書も記載してあります。これは、「その参考書が学習上有益である。」と担当者が判断したものです。可能な範囲で図書館などで探して学習することをお勧めします。
- 講義要綱記載の指定テキストは、変更になる場合があります。『ニューズレター慶應通信』『週末スクーリング掲示板』で順次発表しますので、確認してください。
- 開講科目の中には、授業時間外にパソコンの使用を想定しているものがあります。その場合は、担当教員より授業時に指示があります。

1 総合教育科目

科目 哲学

2 単位

担当 文学部教授 柏端 達也 / 講師 高取 正大

多元主義と相対主義は、今日、哲学や思想を理解するうえで欠かせないキーワードになっている。両者は、たとえば多様な他者に対する寛容さなどの共通点を持ち、ときに混同される。しかしもちろん異なる実質と形態によって特徴づけられる二つの立場である。本講義では、多元主義と相対主義の違いやそれぞれのバリエーションを解説し、それらの立場がもつ理論的な背景や、一般的な問題を検討することにした。

柏端担当の前半部分では多元主義をテーマとする。主として価値に関する多元主義を扱うが、倫理的観点からというよりは、より広く、価値論全般や意思決定理論の観点から問題を取り上げたい。また、理論の背景にある一般的動機を確認するために、存在に関する多元論などの話題にも触れる。

高取が担当する後半部分は相対主義をテーマとする。相対主義的な考え方は、哲学の歴史の中で古くから重要な位置を占めてきたのももちろんのこと、現代的な議論においても注目すべき発展を見せている。本講義では、文化・科学・道徳といった個別の分野に関する相対主義から、真理や知識といったより一般性の高い領域に関する相対主義まで、相対主義的立場の主要なバリエーションを紹介する。また加えて、主として今世紀に入ってからの、相対主義の哲学の新たな展開についても解説したい。

- 〔第1回〕 全体への導入
 〔第2回〕 一元論と多元論（1）
 〔第3回〕 一元論と多元論（2）／価値の多元主義的理論（1）
 〔第4回〕 価値の多元主義的理論（2）
 〔第5回〕 実践における価値の多元性の問題
 〔第6回〕 相対主義：導入と概観
 〔第7回〕 局限的な相対主義（1）
 〔第8回〕 局限的な相対主義（2）／大局的な相対主

義（1）

- 〔第9回〕 大局的な相対主義（2）
 〔第10回〕 現代における相対主義の新たな展開（1）
 〔第11回〕 現代における相対主義の新たな展開（2）
 〔第12回〕 全体の総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- トマス・ネーゲル（永井均訳）『コウモリであるとはどのようなことか』（勁草書房、1989年）
 入不二基義『相対主義の極北』（筑摩書房、2009年）
 飯田隆『新哲学対話』（筑摩書房、2017年）
 イザイア・バーリン（小川晃一・小池銈・福田歓一・生松敬三訳）『自由論』（みすず書房、2018年）
 納富信留・檜垣立哉・柏端達也編『よくわかる哲学・思想』（ミネルヴァ書房、2019年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

特段専門的な予備知識が必要とされることはありません。ただ、哲学的な話題に興味があれば、より理解が進むと思います。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 社会心理学

2 単位

担当 文学部教授 李 光鎬

この講義では、社会心理学の基本的な概念や理論について、実証的な研究例を紹介しながら解説する。さらに、様々な社会的場面や社会事象における人間の行動を社会心理学の概念や理論によってどのように説明することができるのかについて、先行研究の知見を踏まえながら学習していく。

第1回 イン트로ダクション

第1回の授業では、イントロダクションとして、社会心理学とはどのような学問なのか、これまでどのような研究対象について、どのような方法論に基づき、

どのような研究が行われてきたかについて概説的に講義を行う。

第2回 進化心理学からみた社会の形成

第2回の授業からは、テキストに基づいて、各章の内容を順に説明していく。まず、第2回では、配偶と家族（第1章）、利他と協力（第3章）について、主に進化心理学の観点から、最も基礎的な単位の社会の形成や社会形成に基本になる人間行動が、どのように説明され、考えられているかを学習する。

第3回 対人的影響

第3回の授業では、対人的影響に関する社会心理学の研究成果をみていく。「他者の存在」を重要な要因とする社会心理学において、各個人が望むことを他者に働きかけるという行為は対人的影響と呼ばれる。対人的影響にはどのような現象が含まれるのか、その主たる影響パターンに関係する要因に目を向け、受け手の考えや行動を変容させる説得のプロセスについて学習する。

第4回 リスク

私たちは生きていく上でなるべくよい結果を得たいと考えている。しかし、それとは裏腹に、望ましくない結果につながってしまうこともある。食品の選択、治療や服薬、消費や金融など、様々な意思決定にリスクがつきまとう。第4回の授業では、このような様々なリスクを私たちはどう捉え、どう対処していくのかを、社会心理学から説明していく。

第5回 キャリア形成・健康

第5回の授業では、キャリア発達に関する様々なモデルを検討し、キャリアプランニングにおける偶然性の役割、周囲の人からの影響などについて考えていく。また、生活習慣やストレスとの関連から健康の問題を取り上げ、社会心理学が健康についてどのような説明をしているのかを学習する。医療と情報の問題についても検討する。

第6回 社会的影響力

第6回では、社会的影響力をキー概念として、対人的影響、リーダーシップ、影響力保持者の認知などについて学習する。社会的影響力の基盤はどこにあるのか、私たちのふだんの対人関係は、社会的影響力という観点からはどのように捉えられるのか。また、リーダーシップは社会的影響力とどのような関係にあるのかについてみていく。

第7回 メディア

私たちの社会的生活を支える一つのインフラともいえるメディアに対しては、社会心理学の視点から非常に多くの研究が行われてきた。社会心理学の視点からメディアを研究するとは、メディア利用の背後にある人間の心理に目を向けること、そして、メディア利用から受ける心理的な影響に注目することである。第7回では、このような「メディアの社会心理学」を、ソーシャルメディアとマスメディアに分け、学んでいく。

第8回 世論調査とランキング

第8回では、社会調査の現況や基本的な考え方を簡単に説明した上で、信頼できる調査の実施が難しい理由を様々な誤差の観点から考える。また、調査結果を元に作られるランキング情報の問題点や、なぜ人々がランキング情報に惹かれるのかについて検討する。

第9回 普及と流行

第9回では、まずイノベーションの普及過程とニュースの普及過程に関する基本的な知見を紹介し、相対的に短い期間に急速に普及する現象として「流行」を取り上げ、社会心理学がその現象をどのように捉えてきたのかを検討する。

第10回 環境配慮

環境問題は、健康の維持や生活の質の維持・向上といった問題が相互に絡み合うことから、個人と社会の関係を扱う社会心理学において重要な課題である。この授業では、環境配慮の態度と行動の不一致という課題と、環境配慮の社会的利益と個人の利益が衝突する社会的ジレンマの課題について考えていく。

第11回 防災

第11回では、防災の分野で社会心理学の研究成果がどのように使われているのかをみていく。自然災害や事件・事故を防ぐために、被害を少なくするために、多くの社会心理学の研究が行われてきた。授業では、今後起こりうる災害に備えるために重要だと考えられる点を中心に学習していく。

第12回 まとめと試験

ここまでの講義内容を総括し、試験を行う。

◆テキスト

・李光鎬・杉浦淳吉編著『新・社会心理学』（通信テキスト、2019年、文学部IV年度②配本）

◆成績評価方法

平常点（授業内課題）40%と最終回の試験60%の配分で評価します。

科目 自然科学概論

2単位

担当 法学部准教授 小野 裕剛

今年度、私が担当するクラスは生物学分野を中心に上げるクラスです。このクラスは遺伝と遺伝子の働きから解説を始め、ヒトの一生と生活に関連する話題を生物学の目線から取り上げます。なるべく具体的な例を取り上げつつも、専門的になりすぎないように考えた、生物学初心者向けの講義です。各回の予定は都合により、多少変更される可能性があります。

〔第1回〕 遺伝と遺伝子の基礎：このクラス全般に関わる遺伝子の使い方・遺伝の仕組みについて説明します。

〔第2回〕 ゲノムとは何か：遺伝子の集合である染色体やゲノムをどのように捉えるか説明します。

〔第3回〕 植物育種と遺伝：作物の品種改良と遺伝・遺伝子の関連を説明します。

〔第4回〕 遺伝子組み換え：遺伝子組み換え作物をはじめとする遺伝子組換え体の作成方法とその利用に関して説明します。

〔第5回〕 配偶子形成：精子や卵子を作るときにどのように染色体が配分されるのか、また、ダウン症などの染色体異常はどうして起こるのかについて解説します。

〔第6回〕 ヒトの初期発生：哺乳類の胚発生とヒトの生殖技術について説明します。

〔第7回〕 ゲノム編集：最近話題のゲノム編集について、その原理について説明します。

- 〔第8回〕 再生医療：iPS細胞の原理とそれを使った医療について説明します。
- 〔第9回〕 免疫の基礎：免疫系の細胞が体を防衛する仕組みについて説明します。併せてエイズ（後天的免疫不全症候群）がなぜ起こるのかを解説します。
- 〔第10回〕 免疫の話題：アレルギー反応と臓器移植の拒絶反応について取り上げます。
- 〔第11回〕 がんの原因：がんとはどのような病気か、遺伝子との関連から説明します。
- 〔第12回〕 がん治療：現在一般的に行われているがん治療と期待されている新しいがん治療について解説します。本庶佑先生のノーベル賞についても解説します。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・武村政春ほか『Primary大学テキスト これだけはおさえたい生命科学』（実教出版、2010年）
- ・通信教育課程で「生物学」を履修した（している）学生は、通信テキスト『生物学』も参照してください。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

「成績評価方法」に示したとおり、毎回ミニテストを行い、その積算で成績をつけます。そのため欠席すると即座に評価が下がります。毎回出席するつもりで取り組んでください。

◆成績評価方法

講義時間ごとにミニテストを行い、その積算で評価します。

科目 英語（リーディング）A

1単位

担当 文学部教授 高橋宣也

テキストは、英語の単語の由来を訪ねる内容です。章ごとに一つの単語が扱われ、今では何気なく用いられている語が、どのような経緯で現代のような意味や用法となったのかをたどります。簡明な説明を正確に読む訓練を行います。また同時に、テキストの内容から英語そのものへの興味も深まることを期待します。

- 〔第1回〕 導入、第1章
- 〔第2回〕 第2章
- 〔第3回〕 第3章
- 〔第4回〕 第4章
- 〔第5回〕 第5章
- 〔第6回〕 第6章
- 〔第7回〕 第7章
- 〔第8回〕 第8章
- 〔第9回〕 第9章
- 〔第10回〕 第10章
- 〔第11回〕 第11章
- 〔第12回（最終回）〕 質疑応答・試験

◆テキスト

- ・Isaac Asimov『Words from History II（英単語のロマンスII〔改訂版〕）』鷹書房弓プレス、1994年、ISBN978-4-8034-1162-1

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

テキストの英語は比較的平易ですが、細部をおろそかにせずにきちんとした読解を目指しますので、綿密な予習が必要です。各章の「Exercise」（練習問題）1番～3番もやってきてください。講義内容の予定は進行の目安ですので、前後することがあります。

◆成績評価方法

平常の出席と授業時の成果、試験で評価します。

科目 英語（リーディング）B

1単位

担当 講師 赤羽俊昭

様々な英文を音読し和訳してもらいます。映像や音声に伴う英文を読む場合は、それを活用するつもりです。

- 〔第1回〕 TOEICのReading Sectionに挑戦しましょう。教材は教員がプリントにして当日配布しますが、辞書を使わなくても済むように注釈を付けておきます。予習は不要です。
- 〔第2回〕 英語のニュース放送の聴取と読解に挑戦しましょう。教材は最近のCNN 10で放送されたニュースを利用する予定です。まず映像を見て音声を聞きながら、内容を大まかに把握してもらいます。そのあと、放送された英語原稿に注釈をつけたプリントを配布し、受講者の皆さんを指名して、その場で音読と訳読をしてもらいます。予習は不要です。最後に和訳のプリントを配布します。
- 〔第3回〕 英語のプレゼンテーションの聴取と読解に挑戦してもらいます。教材は最近のTEDで取り上げられた話題を取り上げる予定です。授業の進め方は〔第2回〕と同じです。プリントには注釈をつけておきます。予習は不要です。
- 〔第4回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。
- また、この授業中に、次回および次々回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。
- 〔第5回〕 前週に配布しておいた英語新聞の報道記事の読解に挑戦してもらいます。今年の*The Japan Times*に掲載された日本関連の記事を、段落1つずつに割り当てられた担当者、音読と和訳をしてもらいながら授業を進めます。今回と〔第6回〕の2回に分けて読んでいく予定です。
- 〔第6回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。授業時間内に音読と和訳をやってもらおうことができなかった受講生には、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。次回授業時に添削して返却します。また、この授業中に、次回および次々回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読

- と和訳の担当者を決めておきます。
- 〔第7回〕 今回も英語新聞を読みますが、記事は*The New York Times*を使用します。やり方は前回までの講読と同じです。
- 〔第8回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。授業時間内に音読と和訳をやってもらおうことができなかった受講生には、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。次回授業時に添削して返却します。また、この授業中に、次回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。
- 〔第9回〕 今回は英語雑誌の*The Economist*の記事をこれまでと同じやり方で読んでいきます。今年の日本の社会現象を取り上げた記事を読む予定です。
- 〔第10回〕 前回と同じ教材を引き続き扱います。最後に和訳のプリントを配布します。授業時間内に音読と和訳をやってもらおうことができなかった受講生には、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。次回に添削して返却します。
- なお、この回までに授業時間内に扱った箇所が、試験範囲となります。
- 〔第11回〕 この授業では、〔第2回〕〔第3回〕〔第4回〕と同様に、音声と映像を伴った教材を取り上げます。この回の教材は次の時間の総括の範囲から除外します。
- 〔第12回〕 〔第1回〕から〔第10回〕までの教材の理解度を測るため、筆記形式で総括を行います。その後は、出題した問題の解説と、採点のポイントについてお話しします。
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

授業時の英文の読解力（30点満点）と最終日の試験結果（70点満点）に基づいて決定します。

科目 英語（ライティング） 1

1 単位

担当 講師 吉原 学

センテンス・レベルのライティングのコースです。このコースには2つの目的があります。第1の目的は、英作文（センテンス・レベル）の練習を通して正確な文を書けるようになることです。きちんとした文を書けるようになれば、きちんとした英語を話せるようになれます。第2の目的は、センテンス・レベルのライティングの練習を通して英語における情報の伝達の仕方（語順）、文法、そして語法（語の使い方）を習得することです。これらの知識なしでは正確な文を書くことはできません。今回は、以下の5つの重要文法事項に焦点をあて学習します。

授業はペアもしくはグループを作って、受講生同士が意見交換をしながら力を付けていくようにします。みなさんが主役のコースです。

- 〔第1回〕 オリエンテーション&時のコントロール（時制）①
- 〔第2回〕 時のコントロール（時制）②
- 〔第3回〕 時のコントロール（時制）③
- 〔第4回〕 時のコントロール（時制）④
- 〔第5回〕 機能表現（助動詞）①
- 〔第6回〕 機能表現（助動詞）②
- 〔第7回〕 名詞&冠詞
- 〔第8回〕 後置修飾①
- 〔第9回〕 後置修飾②
- 〔第10回〕 接続詞①
- 〔第11回〕 接続詞②
- 〔第12回〕 総括／ファイナルテスト

◆テキスト

プリント教材

◆受講上の要望または受講上の前提条件

学習効果を高めるために、事前準備として「いいずな書店」が無料で提供している『【MEW Core 500】コア解説動画』の動画1～74までを見て、基本動詞、前置詞のコアを確認しておいてください。

https://www.youtube.com/playlist?list=PLI9V6ssotJDxRKVa1YxHrW8G_2KcZ8Cup

◆成績評価方法

成績は、次の基準でつけられます。出席率・授業参加・積極性（40%）、ファイナルテスト（60%）。また、正当な理由のない欠席が4回以上になった場合または過度の遅刻がある場合、成績がつけられなくなります。

また、5分以上の遅刻3回で1回の欠席となります。

科目 英語（ライティング） 2

1 単位

担当 講師 沢村 静

このクラスでは、基本的な英作文からパラグラフライティングの基本構造を理解した正しい文章を書けることを目指します。自己紹介から説明書、物語文など各テーマについて筋道立てて自己表現するための技術を学びましょう。文章の理論構成、展開法を理解するとともに、その基礎となる文法事項を復習し、語彙を強化していきます。

- 〔第1回〕 Chapter 1：Introduction 定義の仕方
- 〔第2回〕 Chapter 2：トピック文の書き方
- 〔第3回〕 Chapter 3：時系列的なサポート文の書き方
- 〔第4回〕 Chapter 4：手順や手続きを説明するサポート文の書き方
- 〔第5回〕 Chapter 5：例示・列挙のサポート文の書き方
- 〔第6回〕 Chapter 6：原因と結果のサポート文の書き方
- 〔第7回〕 Chapter 7：比較・対照のサポート文の書き方
- 〔第8回〕 Chapter 8：分類のサポート文の書き方
- 〔第9回〕 Chapter 9：前置詞の概念とイメージについて
- 〔第10回〕 Chapter 10：形容詞の種類、関係副詞について

〔第11回〕 Chapter11：分詞・分詞構文について

〔第12回〕 総括

〔その他〕 小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回辞書を必ず持参してください。予習、復習を前

提で授業を進めます。アクティビティやディスカッションを多く取り入れますので、他学生と積極的に関わりながら授業に参加することを期待します。また、各課ごとの課題提出は必須です。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

2 文学部専門教育科目

科目 社会学（専門）

2単位

担当 文学部教授 岡原正幸 / 講師 高山 真

「生と感情の社会学」をアートベース・リサーチという手法で受講者と一緒に作り出します。

たとえば社会学の基本の1つである社会調査、否定的なく人と関わるこの学的な営みを、どこに位置づけ、その営みの中で自らをどこに位置づけていくのか、対象を客観化する知が、ただそれだけ評価されるような時代は過ぎ去り、いまや、知の生産と消費を担ってきた大学アカデミズムも現代社会に立ち位置を失いつつある。学問の死を謳うのはたやすい、しかしだからこそ、社会学という営みを再び肯定的に捉える視角が必要ではないのか。生の社会学とは、生を社会的に説明する営みに還元されるようなものではなく、生きられる社会学であり、生きることを生きようとする、そんな試みだと考えてほしいです。

生の多様性をめぐる議論があるとして、それを、いかに自分が生きるのかという問いに、どのように結びつけることができるのだろうか。この授業で参加者と一緒に僕たちが考えてみたいのは、これである。具体的にどうするのかといえば、僕らが教卓に座って講義することはまずない。全員が全員に向けて講義をする。受講者は他の受講者にとってのゲストスピーカーになり得るということである。生を生きるという資格においてひとりひとりの参加者がゲスト講師たりえるのである。チームに分かれてライフストーリーを互いに聞き、中からいくつかの生を他の受講者に伝える試みとなる。

この伝える試みとして、アートを利用した社会学実践を行う。アートベース・リサーチと呼ばれ、多種多様なアートワークが利用されるが、ここでは身体的な演劇的な手法を用いる（パフォーマンス・エスノグラフィ）。さらに、詩や文学、映像や音楽なども利用する。

自分が話を聞いて、その人の経験をなぞるという実験的で重要な試みとなる。

〔第1回〕 授業全体の構想について、チーム編成

〔第2回〕 自分史のシェア

〔第3回〕 ライフストーリーとは、アートベース・リサーチとは

〔第4回～第9回〕 チーム活動

〔第10回〕 リハーサル

〔第11回～第12回〕 プレゼンテーション（北館ホールにて各チーム1回公演）

授業に関する情報は下記のホームページで

<http://lebenssoziologie.jimdo.com>

◆テキスト

・岡原正幸・小倉康嗣他『感情を生きる』（慶應義塾大学出版会、2014年）

・岡原正幸『感情資本主義に生まれて』（慶應義塾大学出版会、2013年）

◆参考文献

・岡原正幸他『生の技法〔第3版〕一家と施設を出て暮らす障害者の社会学』（生活書院、2013年）

・岡原正幸『ホモ・アフェクトス』（世界思想社、1998年）

・高山真『〈被爆者〉になる』（せりか書房、2016年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

自分の生について語ることが求められるでしょう。

また他者の生について傾聴し、一緒に考えることも求められるでしょう。事前に、自分史や家族史、自分が生きてきた中での特定の記憶や体験について、3000字～5000字程度でまとめておいてください。書式や用紙は自由です。この課題は授業初回に持参してください。それを土台に皆さんのスピーチを作成してもらいます。また言うまでもありませんが、受講者間でのやりとり、授業内でのやりとりが個人的なものに関わる以上、当事者の了承なくして外部に公開することは避けてください。

夏期スクーリングと今年度週末スクーリングの内容は基本的に同じです。受講者の数を抽選で週末スクーリングは80名以下に絞ります。両方の授業を同一年度に履修することはできません。

◆成績評価方法

試験は行いません。出席によって評価します。

チーム活動への影響が大きくなるような欠席回数は成績に大きく響きます。

科目 民族学

2単位

担当 講師 梅村 絢美

この授業では、文化人類学に関する複数のトピックを挙げ、民族誌で描かれる事例や講師の調査経験とともに紹介します。これをふまえ、受講者自身が前提とする「ものの見方」を相対化し、他者との具体的な交渉を通じて自己を理解するという文化相対主義・関係論的アプローチを習得することを目指します。この過程から、新自由主義体制のもとにあるグローバルな領野において、支配的な価値・言説にとらわれることなく、他者との対称的かつ具体的な関係構築に根差したコ

2019年度週末スクーリング

コミュニケーションの技法を身につけることを最終的な到達目標とします。

本講義は、以下の3つの到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み・対象への接近方法について理解を深める。
- (2) 受講者自身の思考の枠組みを相対化する視点を養い、グローバル規模に展開する様々な社会現象を広い視野でとらえる技法を身につける。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、受講者自身の経験や身の回りの出来事をとらえ、発信する技術を身につける。

- 〔第1回〕 フィールドワークと民族誌：人類学者の仕事
〔第2回〕 文化相対主義：他者とともに生きるための手がかかり
〔第3回〕 ケガレとタブー：境界域からみえる世界
〔第4回〕 シンハラ社会の「熱」と「冷」：スリランカにおける女性のライフサイクルと身体
〔第5回〕 贈与と交換と絆：社会をつくる経済活動
〔第6回〕 供物の「徳」とギフトの「毒」：ヒンドゥー教の贈与
〔第7回〕 布施される血液：スリランカ仏教寺院における献血
〔第8回〕 輪廻転生の世界観『チベット死者の書』
〔第9回〕 他者を内在する個人、他者によって生かされる個人
〔第10回〕 呪術と災因論：科学や医学が発達しても占いやお守りがなくなるのはなぜ？
〔第11回〕 癒しと呪術：スリランカの悪魔祓い
〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

講義形式ではありますが、常に思考を働かせ主体的に受講するよう心がけてください。

質問は授業後に受け付けます。積極的に質問してください。

◆成績評価方法

各回の授業時に提出するコメントシートおよび最終日の試験によって総合的に評価する。

科目 フランス文学史

2単位

担当 講師 小嶋竜寿 / 講師 松本鉄平

本講義では16世紀から20世紀までのフランス文学を概観します。個々の作品と作家の分析にとどまらず、文学がフランス社会とどのように関わってきたのかを歴史の展開のなかで辿っていきます。

- 〔第1回〕 16世紀フランス文学の展望
〔第2回〕 17世紀フランス文学の展望
〔第3回〕 自由思想の胎動
〔第4回〕 18世紀フランス文学の展望
〔第5回〕 啓蒙思想の担い手たち
〔第6回〕 辞書の時代
〔第7回〕 フランス革命以後とロマン主義
〔第8回〕 産業社会と写実主義・自然主義
〔第9回〕 ベル・エポックに向かう文学・詩
〔第10回〕 2つの戦争と戦間期の文学
〔第11回〕 戦後から現代フランス文学・思想へ
〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

・渡辺一夫・鈴木力衛『増補 フランス文学案内』岩波書店、1990年

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

第1回目の講義からテキストを使用しますので、必ず事前に購入し持参してください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

【第1類に属する科目】

科目 哲学特殊

2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

経済学部専門教育科目「ゲーム理論」(35頁)を参照してください。

【第2類に属する科目】

科目 西洋史特殊

2単位

担当 法学部准教授 大串 敦

法学部専門教育科目「地域研究(ロシアの政治)」(36頁)を参照してください。

3 経済学部専門教育科目

科目 経済原論(マクロ経済学)

2単位

担当 講師 八尾政行

マクロ経済学はミクロ経済学と並び、今日の経済学

の基礎となる分野である。消費者、生産者といった経済の構成員の視点をもとにしたミクロ経済学に対し、マクロ経済学は経済全体を俯瞰する立場をとる。本講義はマクロ経済学のなかでも、長期の経済に関する分析、特に経済成長論に焦点を当てる。国によって国民

一人当たりの所得や労働者の生産性が異なるのはなぜか、経済が停滞している国と急速に発展している国があるのはなぜか、なにが経済成長の源泉なのか、といった疑問を経済学的手法を通じて理解することを目標とする。

- 〔第1回〕 導入：マクロ経済学とは何か
- 〔第2回〕 家計の消費と貯蓄
- 〔第3回〕 企業の投資と資産市場
- 〔第4回〕 貨幣と銀行
- 〔第5回〕 長期の経済分析
- 〔第6回〕 経済成長の概観
- 〔第7回〕 マクロ的生産関数
- 〔第8回〕 ソロー・モデル（1）
- 〔第9回〕 ソロー・モデル（2）
- 〔第10回〕 内生的成長モデル（1）
- 〔第11回〕 内生的成長モデル（2）
- 〔第12回（最終回）〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・チャールズ I. ジョーンズ著、宮川努・荒井信幸・大久保正勝・釣雅雄・徳井丞次・細谷圭訳『ジョーンズ マクロ経済学1 長期成長編』東洋経済新報社、2011年
 - ・二神孝一・堀敬一『マクロ経済学 第2版』有斐閣、2017年
- その他の参考文献は講義中に紹介する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

受講にあたって、特に前提とする知識はない。ただし、ミクロ経済学、微分法に関する知識があればより内容を理解できる。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 ゲーム理論

2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

この授業ではゲーム理論（非協力ゲーム）の基本的な考え方を学びます。

- 〔第1回〕 ゲームの表
- 〔第2回〕 「守られる口約束」としてのナッシュ均衡
- 〔第3回〕 ゲームの木
- 〔第4回〕 「先読み」と部分ゲーム完全均衡
- 〔第5回〕 選択肢は多いほうがいいですが？
- 〔第6回〕 赤い帽子のパズルと possible worlds model
- 〔第7回〕 ゲームの木と「情報集合」
- 〔第8回〕 情報は多いほうがいいですか？
- 〔第9回〕 「フリーライダー問題」と繰り返しゲーム
- 〔第10回〕 シグナリング・ゲーム
- 〔第11回〕 ペア決めマッチング問題
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫、2001年
- ・A. ディキシット&B. ネイルバフ『戦略的思考をどう実践するか』阪急コミュニケーションズ（CCCメディアハウス）、2010年

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

微分や積分は使いません。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

科目 社会学（専門）

2単位

担当 文学部教授 岡原正幸 / 講師 高山 真

文学部専門教育科目「社会学（専門）」（33頁）を参照してください。

科目 政治理論

2単位

担当 法学部教授 河野武司

法学部専門教育科目「政治理論」（36頁）を参照してください。

科目 地域研究（ロシアの政治）

2単位

担当 法学部准教授 大串 敦

法学部専門教育科目「地域研究（ロシアの政治）」（36頁）を参照してください。

4 法学部専門教育科目

科目 政治理論

2単位

担当 法学部教授 河野武司

本講義の目的は、現代政治学が政治現象を理解するために、理論という道具をどのように活用してきたかを概観し、問題設定と分析を行うプロセスを理解することにあります。講義の前半では、規範や理想について対象とする規範的政治理論との対比を通して、現実を分析の対象とする科学としての政治学における理論（実証的政治理論）のあり方を解説します。後半では市民の政治参加や代議制民主主義の作動に関する主要な概念と理論について、最近の研究や具体的な事例を踏まえながら考察します。具体的には、以下のような計画に沿って進みます。なお、以下の講義計画は暫定的なものであり、順序や内容について若干の変更がある場合もあります。

- 〔第1回〕 伝統的政治学から現代政治学へ転換
科学としての政治学の追及の歴史
- 〔第2回〕 科学としての政治学と理論の役割
規範的政治理論（理想）と実証的政治理論（現実）の相互補完性
- 〔第3回〕 科学的な研究の手順と信頼性・妥当性
リサーチプロセスの循環的な8段階
①問題意識、②既存研究の確認、③仮説構築、④仮説中の概念の操作化、⑤研究のデザイン、⑥データの収集、⑦分析、⑧理論化
- 〔第4回〕 政治理論と合理的選択アプローチ
現代の政治学において一つのパラダイムとなった合理的選択アプローチとは何か→利己心と最大化行動、利他主義
- 〔第5回〕 市民の投票参加をどのように説明するか
期待効用モデル（投票参加の計算式）とミニマックスリグレットモデル
- 〔第6回〕 市民の投票方向の決定をどのように説明するのか①
コロンビア学派（社会学的分析）
- 〔第7回〕 市民の投票方向の決定をどのように説明するのか②
ミシガン学派（心理学的分析）と合理的選択
- 〔第8回〕 利益団体の政治的影響力をどのように説明するのか①
利益団体自由主義、コーポラティズム、利益の組織化と副産物理論
- 〔第9回〕 利益団体の政治的影響力をどのように説明するのか②
政治的企業家と政治的交換関係
- 〔第10回〕 代議制民主主義は失敗するという神話の理論的検討①
A. ダウンズの命題「政策における反消費者・生産者支持の偏向」
→政治過程に参加する各アクターが合理的だから失敗する
- 〔第11回〕 代議制民主主義は失敗するという神話の理論的検討②

D. ウィットマンによるダウンズに対する批判

→政治過程に参加する各アクターが合理的だからこそ機能する

A. カプランによるウィットマンに対する批判

→市民は合理的な非合理性を有するから代議制民主主義は失敗する

〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

特に指定しません。

◆参考文献

授業中に適宜紹介します。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

要領よく講義内容をまとめたノートを作成し、それを自分自身の教科書として下さい。

◆成績評価方法

最終日の試験と私の問いかけに対する回答などの普段の授業に対する貢献を総合して評価します。

科目 地域研究（ロシアの政治）

2単位

担当 法学部准教授 大串 敦

本講義ではソ連時代から現代にいたるまでのロシアとロシア以外の旧ソ連諸国の内政を扱う。ソ連の政治体制が独特な体制であったことは言うまでもない。その成立から解体、新体制の成立と現状を比較政治学的に分析・理解する。比較政治学的主要理論（革命論、体制変動論、政治体制論、政党政治、議会政治、連邦制、官僚制など）と地域に関する事実関係を理解することができればおおむね講義の目的は達成される。

〔第1回〕 目的と方法、スラヴ・ユーラシア地域の基礎条件（地理・気候など）

〔第2回〕 革命の理論とロシア革命

〔第3回〕 全体主義体制とスターリン体制

〔第4回〕 民主主義と共産主義体制

〔第5回〕 ナショナリズム理論と帝国としてのソ連

〔第6回〕 近代化論、社会経済発展と共産主義体制

〔第7回〕 体制転換の理論とソ連解体1

〔第8回〕 体制転換の理論とソ連解体2

〔第9回〕 連邦制の理論とロシアの連邦制

〔第10回〕 憲法体制の理論とスラヴ・ユーラシア諸国の憲法体制、大統領の政治指導

〔第11回〕 政治体制転換と経済体制転換の関係一理論とロシアの実際から一

〔第12回〕 試験・総括

◆参考文献

・アーチャー・ブラウン『共産主義の興亡』（中央公論新社、2012年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

広く比較政治学一般とロシアを含めたスラヴ・ユーラシア地域に関心のある受講生を歓迎します。

◆成績評価方法

最終日の試験による

科目 国際法 2単位

担当 法学部専任講師 尹 仁河

本講義では、国際社会において適用される法としての国際法とは何か、その基本構造および概念について学び、現実に行き起している国際問題を国際法の観点から理解してゆきます。国際社会を見る眼として、政治・経済・文化など様々な観点がありますが、法的観点から分析する力を養うことを目標にします。

講義予定：

- 〔第1回〕 国際法とは
- 〔第2回〕 国際法の法源〈条約、国際慣習法〉
- 〔第3回〕 国際法と国内法
- 〔第4回〕 条約法
- 〔第5回〕 国際法の主体〈国、国際機構、人民、個人〉
- 〔第6回〕 国際人権法

- 〔第7回〕 国際法における空間秩序（領域、海洋法）
- 〔第8回〕 国際責任法
- 〔第9回〕 国際紛争の平和的解決、国際裁判手続（国際司法裁判所）
- 〔第10回〕 武力行使の禁止、自衛権、国連の集団安全保障体制
- 〔第11回〕 国際人道法
- 〔第12回〕 まとめ

◆テキスト

- ・大森正仁編『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房、第2版、2014年）

◆参考文献

- ・岩沢雄司編『国際条約集2019年版』（有斐閣）
- ・小寺彰編『国際法判例百選』（有斐閣、第2版、2011年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

科目 社会学（専門） 2単位

担当 文学部教授 岡原正幸 / 講師 高山 真

文学部専門教育科目「社会学（専門）」（33頁）を参照してください。

科目 経済原論（マクロ経済学） 2単位

担当 講師 八尾政行

経済学部専門教育科目「経済原論（マクロ経済学）」（34頁）を参照してください。

科目 ゲーム理論 2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

経済学部専門教育科目「ゲーム理論」（35頁）を参照してください。

5

2019年度大阪（週末）スクーリング

文学部専門教育科目・経済学部専門教育科目

科目 日本史特殊

2単位

担当 文学部教授 井奥成彦

この授業では、幕末の「開国」以降日本の経済がどのように発展し、人々の生活がどのように変わったかを見ていきます。具体的な内容は以下の通りですが、進度に多少の遅速はあるかもしれません。

- 〔第1回〕 イントロダクション、幕末の「開国」と国内経済（1）
- 〔第2回〕 幕末の「開国」と国内経済（2）
- 〔第3回〕 維新の経済政策（1）
- 〔第4回〕 維新の経済政策（2）
- 〔第5回〕 近代における産業の発展と問題点（1）（概観①）
- 〔第6回〕 近代における産業の発展と問題点（2）（食品産業①「醸造業」）
- 〔第7回〕 近代における産業の発展と問題点（3）（食品産業②「醸造業」つづき、「製菓業」）
- 〔第8回〕 近代における産業の発展と問題点（4）（食

品産業③「製菓業」つづき）

〔第9回〕 近代における産業の発展と問題点（5）（繊維産業「綿糸紡績業」・「生糸製糸業」・「織物業」）

〔第10回〕 近代における産業の発展と問題点（6）（石炭産業、鉄道業）

〔第11回〕 近代の経済発展と生活の変化

〔第12回（最終回）〕 試験及び総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・浜野潔・井奥成彦ほか『日本経済史1600-2015—歴史に読む現代』慶應義塾大学出版会、2017年（市販書採用科目「日本史特殊IV」テキスト、文学部IV②配本）
- ・井奥成彦編著『時代を超えた経営者たち』日本経済評論社、2017年

◆成績評価方法

最終日の試験による。